

ハンドボール界にも 支援の輪広がる

ハンドボール界にも震災直後から支援の輪が広がっている。

日本協会のホームページでは渡邊佳英会長のお見舞い文とともに義援金を募る呼びかけが掲載されている。この義援金の募集期間は5月末まで。全国各地、各方面から集まっているという。

また、ほとんどの日本リーグ所属チームが地元でそれぞれ募金を呼びかける活動を行ない、多くの支援を受けた。インターネット上では陸上競技の為末大選手（400mハドル）の呼びかけで、競技の枠を越えた多くのアスリートたちが立ち上がり、Just Giving Japanというオンライン

寄付サイトを使ってそれぞれに義援金を募る「TEAM JAPAN」運動を起している。

ハンドボール界からも田中美音子選手（ソニーセミコンダクタ九州）や榊田亮介選手（北陸電力）、銘苅淳選手（トヨタ車体）、東俊介さん（元大崎電気）らが参加し、各ページで支援を呼びかけている。

ハンドボール界の魅力がマスコミを通じて多くの人について発信し続けてきた宮崎大輔選手（大崎）は、歌手のGACKTさんが呼びかける募金活動「show your heart 基金」に賛同。そのホームページには芸能人、アスリートなど各界から集まった名だたるメンバーのコメントが掲載されているが、その中でもトップに宮崎選手のコメントが掲載されている。なおこの募金は3月31日をもって締め切られている。

前出の銘苅選手は、以前から積極的にこなしていた講習会の最後に募金箱を持って、募金の呼びかけをし、さらに義援金を集める活動が続いている。

知立市ハンドボール協会が開いた震災チャリティーレッスンでは、車体の10選手が講師を務め、小学生にハンドボールの楽しさを注入了。任意での呼びかけだった受講料は全額募金された。

関西、北信越地方では、ハンドボールパーク主催のチャリティーイベントが4月2・3・9・10の4日間で開催された。

2日の洛北高では高校生、大学生120人を対象に大同から末松、武田、岸川、野村、田中の5選手、車体から銘苅選手、三重バイオレットアイリスから浅井、横川の両選手が講師を務め、3日の関西福祉科学大では、小、中、高、一般の150人を集め、前日のメンバーに大崎の吉田選手が加わった。

9日は氷見市ふれあいスポーツセンターで小、中学生400人を対象に北電の神田監督、前田、切越、山原、高橋の4選手、大同の渡久川、地引、東、千々波、山城の5選手、車体の銘苅、藤本両選手、三重から浅井、横川、石黒の3選手が講師を務めた。

10日は金沢工業大で中学生400人を対象に北電の5選手が入り替わり、桜井、杉山、高田、廣瀬、榊田選手を加えて行なわれた。

「こころをひとつに」をテーマに多くの人が4日間のイベントに参加し、温かな心に満ちた講習会として成功を取めた。

また、ハンドボールパークでは「Just Giving Japan」を使った募金活動も並行して行なっている。

- ★ハンドボール関連の義援金の呼びかけ★
- ・日本協会
http://www.handball.jp/jha/oshirase/2011/2011_daisinsai_omimai.html
振り込み口座 三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店
振り込み口座 232305
(財)日本ハンドボール協会
※振り込み時に振込人名を【義援金 団体名】としてお振り込みください。
募集期間 ~5月末
 - ・Just Giving Japan (オンライン寄付サイト)
田中美音子 http://justgiving.jp/c/4283
銘苅 淳 http://justgiving.jp/c/2907
榊田 亮介 http://justgiving.jp/c/2956
東 俊介 http://justgiving.jp/c/2147
ハンドボールパーク http://justgiving.jp/c/3057
 - ・show your heart (すでに終了しています)
http://static.hangame.co.jp/hangame/extra/showyourheart/index.html

10回目の節目を迎えた大学生チームによるAIT函館市長杯が3月26日から30日にかけて行なわれたが、期間中、岩本真典監督、宮崎選手ら大崎の有志も合流。約600人の観客を集め、大会に参加した函館大、国士大、名城大、大体大、慶大、駿河台大、福岡国際大からの選抜チームとのチャリティーマッチや函館の中心街で募金活動を行なった。



For Japan Handball From Nara

これまで精力的に講習会を開き、ハンドボールの楽しさを伝えてきた榊田選手。1年前から育英西高校の田中努先生との間で計画されていた故郷・奈良での講習会だったが、大震災後、榊田選手の「チャリティーイベントにしたい」という意向もあり、田中先生はじめとする奈良県協会も快く要望を受けて、準備に取りかかった。

生駒市総合公園体育館を会場に小学生を対象にした講習会だったが、3月24日の当日は同大、天理大の現役大学生も榊田をサポート。またブンデスリーガ2部デーリッチで活躍した経験を持つ赤塚孝治選手（北陸電力に入部予定）も加わって実技指導にあたった。平日の夜にも関わらず、150~200人も人が集まり、奈良からの参加ばかりでなく、大阪、愛知

から駆けつけた人もいたとのこと。指導内容は、ペアを組んでアップ、ストレッチ、キャッチボール、1対1でのシュートをしたあと、榊田選手を交えてのミニゲームなどが行なわれた。

最後は募金活動をエールの寄せ書きなどで締めくくり、意義あるチャリティーイベントとなった。

このイベント内での榊田選手のスピーチの一部をご紹介します。

「今回の大震災を受けて、アスリートとしてなにかできないかということを考え、今回のイベントを開きました。

僕自身は高校時代に奈良で阪神大震災を経験しています。今ここにいる小学生は阪神大震災を経験していません。

岩手県協会の方から電話をいただき『被災地で苦しい思いをしていても、



“ハンドボールをやりたい”という子どもたちはたくさんいる。その子どもたちの分まで、ハンドボールのおもしろさをしっかり伝えてほしい』と言われました。

阪神大震災を経験していないこの子どもたちに、阪神大震災を経験した僕らが、今ここでハンドをやれる意味や、東北の子どもの分までがんばるということを伝えていく責任があると思立ちました。

子どもたちが夢を持ってハンドボールを10年、20年と続けられる土壌を奈良、日本でしっかり作っていきましょう」